

## 2017 年度年次大会 熱工学部門報告

第 94 期熱工学部門年次大会委員会  
 委員長 小原 哲郎 (埼玉大学)  
 幹事 櫻井 毅司 (首都大学東京)

日本機械学会 2017 年度年次大会は、「120 年の伝統と革新の調和～より広く、より深く、より豊かに」をキャッチフレーズに 9 月 3 日 (日)～6 日 (水)、埼玉大学において開催されました。4 日間の会期の初日には、例年通り市民への開放行事である市民フォーラムが行われており、種々のイベントが企画され、多くの方に参加して頂きました。特に、埼玉県およびさいたま市のご協力により、燃料電池自動車および燃料電池バスの展示および試乗会が開催され、多くの方に試乗して頂きました。会期中には、「エネルギー・環境」、「超高齢化社会を支える技術」、「オープンイノベーション」を大会テーマとして 1,115 件の学術講演発表が行われております。

熱工学部門に関連した学術講演では、5 つのセッションからなる「熱工学一般セッション」において、26 件 (伝熱関連: 20 件, 燃焼関連: 6 件) の講演発表が行われております。年次大会の大きな特色である「部門横断セッション」については、以下に述べるオーガナイズドセッション 7 件が企画され、112 件の講演発表がありました。

- ・分散型エネルギーとシステムの最適化 (熱工学部門, 動力エネルギーシステム部門, 計算力学部門, 環境工学部門), セッション数: 2, 講演件数: 9 件
- ・電池・二次電池とマイクロ・ナノ現象 (熱工学部門, 流体工学部門, マイクロ・ナノ工学部門, 動力エネルギーシステム部門, 材料力学部門), セッション数: 3, 講演件数: 15 件
- ・情報機器, 電子デバイスの強度・信頼性評価と熱制御 (材料力学部門, 熱工学部門, 計算力学部門), セッション数: 3, 講演件数: 14 件
- ・熱・流れ可視化計測 (流体工学部門, 動力エネルギーシステム部門, 熱工学部門, バイオエンジニアリング部門, エンジンシステム部門), セッション数: 3, 講演件数: 15 件
- ・乱流における運動量, 熱, 物質の輸送現象およびその応用 (流体工学部門, 熱工学部門), セッション数: 4, 講演件数: 21 件
- ・マイクロ・ナノスケールの熱流体現象 (流体工学部門, 熱工学部門, マイクロ・ナノ工学部門), セッション数: 3, 講演件数: 28 件
- ・医工学テクノロジーによる医療福祉機器開発 (医工学テクノロジー推進会議, 機械力学・計測制御部門, 流体工学部門, 計算力学部門, バイオエンジニアリング部門, ロボティクス・メカトロニクス部門, 情報・知能・精密機器部門, 材料力学部門, 熱工学部門, マイクロ・ナノ工学部門, 機素潤滑設計部門), セッション数: 2, 講演件数: 10 件

熱工学部門では、例年通り熱工学部門に関連する講演に対して「若手優秀講演フェロー賞」の審査を行い、評価フォームによる採点を行っております。審査を行うにあたりご協力を頂きました多くの先生方には、謝意を述べさせていただきます。

部門同好会は、熱工学部門, 流体力学部門および計算力学部門の合同で、9 月 4 日夕方に埼玉大学生協で開催され、合計 16 名の参加を頂きました。

最後になりましたが、今年度の年次大会の企画・運営にご尽力いただきましたオーガナイザー、講演者、座長の皆様に厚く御礼申し上げます。2018 年度に関西大学で開催されます年次大会では、さらに多くの皆様のご参加を賜り、研究交流と親睦を深めて頂けますよう祈念致しております。



2017 年度年次大会総合プログラム表紙